



アレクサンドル・ロトチェンコ《階段》1929年/プリント1994年 ゼラチン・シルバー・プリント 東京国立近代美術館

# SHADOWS

Works from the National Museums of Art

## 陰影礼讃

国立美術館コレクションによる 東京国立近代美術館・京都国立近代美術館・国立西洋美術館・国立国際美術館

2010年9/8|水|—10/18|月| 国立新美術館 企画展示室2E

毎週火曜日休館 開館時間◎10:00—18:00/金曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

主催=独立行政法人国立美術館 共催=朝日新聞社/東京新聞/日本経済新聞社/毎日新聞社/読売新聞社/NHK

新

THE NATIONAL  
ART CENTER, TOKYO  
国立新美術館

## 企画概要

独立行政法人国立美術館は2001年4月に発足し、今年で10年目に入りました。これを記念して、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の5館が協力して展覧会を開催します。

私たちが、ごく日常的に目にしている影。この自然現象の働きは、大きくは二つに分けることができます。足元や地面に落ちる人や物の「影」と、光がさえぎられた場所が薄暗く見える「陰」。この展覧会では、影のこれら二つの特質を踏まえながら、視覚芸術のなかで影がどのように扱われ、どのような役割を果たし、いかなる表現を生み出してきたのかを、多角的に考察していきます。

影は古くから、視覚的な表現においてきわめて重要な要素のひとつでした。しかし、その扱いやそこに含まれる意味が、時代や地域、文化によってさまざまに異なるために、通史的に振り返ることがむずかしいテーマともいえます。本展は、国立美術館が収集する西洋近世から内外の現代美術までを射程として、影の諸相に光を当てようとする試みです。総数約33,300点を数える国立美術館のコレクションから、絵画、版画、写真、映像を中心に厳選された100作家・170点の作品をご堪能いただきながら、美術における影をより深く理解する手がかりを見つけていただければ幸いです。

## 展覧会のみどころ

### 国立美術館のコレクションを一堂に

独立行政法人国立美術館のコレクションは、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館の4館によって保存・管理され、総数約33,300点にのぼります(2010年3月末時点)。その内訳は、20世紀初頭から現代までの内外の美術、写真、工芸、映画フィルムを収集する東京国立近代美術館:約13,000点、内外の近現代の美術、写真、工芸、デザインを扱い、京都を中心とする西日本の美術にも重点をおく京都国立近代美術館:約9,600点、中世から20世紀までの西洋美術を対象とする国立西洋美術館:約4,600点、主に1945年以降の内外の現代美術を収集する国立国際美術館:約6,100点。今回は、この膨大なコレクションから、絵画、版画、写真、映像を中心に厳選された100作家による170点が、国立新美術館の天井高8メートルの展示室に勢ぞろいします。広々とした空間で、国立各館の名品をゆっくりとご堪能ください。

### 時代・地域・ジャンルを横断する多彩な作品が集結

国立美術館が収集の対象とする西洋近世から内外の現代美術まで、多様な作品が並びます。リベラ、ロイスダール、クールベ、モネ、ドラクロワなど西洋近世・近代の絵画、ホルツィウス、ピラネージ、ゴヤ、ドーミエ、クリンガーからルネサンスから近代までの西洋版画、岸田劉生、安井曾太郎、須田国太郎、北脇昇などの近代日本の洋画、速水御舟、横山大観、東山魁夷などの近代日本画、スティーグリッツ、ケルテス、森山大道、篠山紀信らの写真作品、デュシャン、ウォーホル、リキテンスタイン、高松次郎、杉本博司らによる20世紀から現代の作品が、一堂に集まります。時代・地域・ジャンルを横断する多彩な作品を、一挙にご覧いただける機会となるでしょう。

### 影という切り口

「それは、人間の影の輪郭線をたどることによって始まった」——古代ローマの歴史家プリニウスがこう記して以来、影は絵画芸術の起源と結びつけられ、幅広い時代・地域の視覚芸術に欠くべからざる、普遍的で重要な要素のひとつであり続けてきました。けれども、そのあまりの普遍性や、時代・地域によって異なる意味づけの多様さ、複雑さゆえに、影は、体系的に考察することがむずかしい題材ともいえるでしょう。本展は、この大切でありながら取り組みにくいテーマを丁寧に腑分けし、その一つひとつを照らしたそうとする実験的な試みです。視覚芸術における影のさまざまな側面を、より深く理解するきっかけを得ていただけることと思います。

## I 影あるいは陰

影と呼ばれる自然現象は、地面などに落ちる人や物の「影」と、日が当たらない壁などが薄暗く見える「陰」の二つに大別できます。はじめに、そうした自然現象への関心がもとになっている写真作品を通して、影とはなにかを考えてみましょう。続いて、絵画や版画では、影というものが、実在感を生み出すための主要な手段であったことを、静物画や裸体像で確認してみます。

主な出品作家：

ギュスターヴ・クールベ、ジョルジョ・モランディ、  
アルフレッド・スティーグリッツ、速水御舟、安井曾太郎



ジョルジョ・モランディ《静物》1952年 油彩/カンヴァス 国立国際美術館  
©STAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2010

## II 具象描写の影と陰

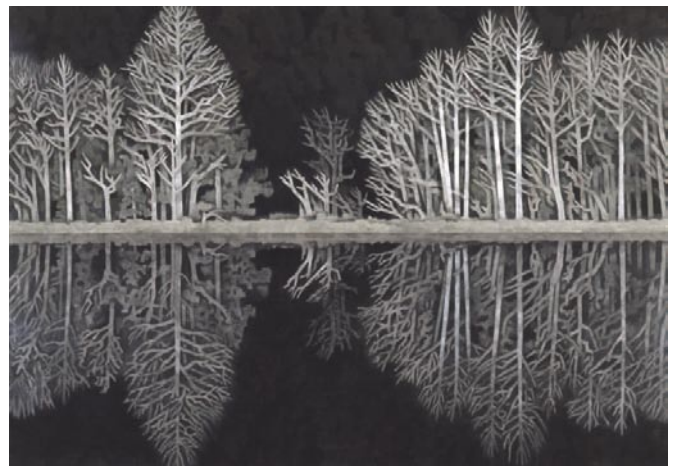
影は、多くの画家や版画家たちにとって、興味の尽きることのない自然現象でした。ここでは、影が、注目すべき重要な働きをしている肖像画や、人のいる情景、あるいは風景表現を取りあげ、具象的な描写における影のさまざまな在り方について考えてみます。さらに、誇張された影の描写が、きわめて個性的な表現に結びついている作品も紹介します。

主な出品作家：

フセーベ・テ・リベラ、フランシスコ・デ・ゴヤ、ウジェーヌ・ドラクロワ、  
ギュスターヴ・クールベ、オノレ・ドーミエ、クロード・モネ、岸田劉生、  
須田国太郎、東山魁夷、横山大観、北脇昇



クロード・モネ《チャーリング・クロス橋、ロンドン》1902年頃 油彩/カンヴァス  
国立西洋美術館(松方コレクション)



東山魁夷《映象》1962年 紙本彩色、額 東京国立近代美術館



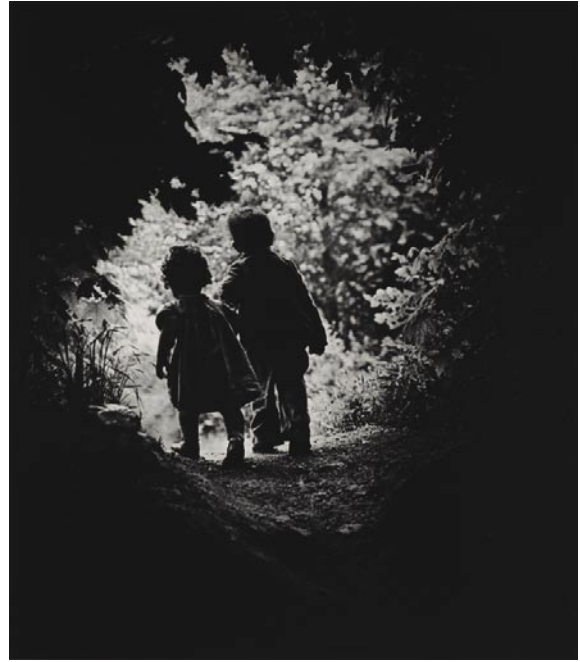


### カメラがとらえた影と陰

カメラという機械の眼で対象を切りとる写真では、影は、ときに制作者の意志とは無関係に記録され、思いがけない効果をもたらします。とりわけ白黒写真では、影は黒々と写りこみ、おのずと強い存在感を放つことになります。ここでは、こうした技法の特質ゆえに、独自の表現を生み出してきた写真における影のさまざまな在り方について考えてみます。

主な出品作家：

アンドレ・ケルテス、アレクサンドル・ロトチェンコ、アンセル・アダムス、  
W. ユージン・スミス、恩地孝一郎、東松照明、森山大道、宮本隆司、  
畠山直哉



W. ユージン・スミス《楽園への歩み》1946年 セラチン・シルバー・プリント  
京都国立近代美術館  
©2010 The Heirs of W. Eugene Smith/PPS



### 影と陰を再考する現代

目に見える現象である影は、まさに目に見える世界を描写した作品において、多様な働きをしてきました。しかし、作品の視覚的で造形的な側面ばかりではなく、コンセプトも重視されるに至った20世紀以降は、美術作品における影の扱いも、多彩なものとなっています。ここでは、20世紀と現代の美術から、影をめぐる独自のアプローチや表現が見てとれる作品を紹介します。

主な出品作家：

マルセル・デュシャン、アンディ・ウォーホル、ロイ・リキテンスタイン、  
クシュトフ・ヴォディチコ、高松次郎、榎倉康二、秋岡美帆、杉本博司、  
丸山直文



マルセル・デュシャン《自転車の車輪》1913年/シュヴァルツ版1964年  
木製椅子、自転車の車輪 京都国立近代美術館  
©Succession Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2010

## 観覧料

当日：一般1,000円／大学生500円

前売：一般 900円／大学生400円

団体：一般 800円／大学生400円

- \* 高校生、18歳未満の方、および障害者手帳をご持参の方(付添の方1名を含む)は無料
- \* 団体券は会場でのみ販売(20名以上に適用)
- \* 前売券、および当日券はチケットぴあ(Pコード:764-252)、ローソンチケット(Lコード:38419)で取り扱っております(手数料がかかる場合がございます)
- \* 前売券は7月1日(木)より販売いたします
- \* 会期中に当館で開催中の企画展、および公募展のチケット、またはサントリー美術館、森美術館(六本木アート・トライアングル)で開催中の展覧会チケット(半券可)を提示された方は、団体料金が適用されます

## 関連イベント

## ■講演会

9月12日(日) 14:00-15:00 大谷省吾(東京国立近代美術館 主任研究員)

会場:国立新美術館 3階 研修室/定員60名(先着順)

9月19日(日) 14:00-15:00 中西博之(国立国際美術館 主任研究員)

会場:国立新美術館 3階 講堂/定員250名(先着順)

- \* いずれも聴講は無料ですが、本展の観覧券(半券可)が必要となります
- \* 各イベントの日時や内容は変更される場合があります。詳細やその他関連イベントについては、当館のホームページをご覧ください

## 同時期開催

「マン・レイ展」 7月14日(水)ー9月13日(月)

「ゴッホ展」 10月1日(金)ー12月20日(月)

## ■報道関係のお問い合わせ

国立新美術館 広報担当:滝沢、野々下、李

Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp



国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2  
03-5777-8600(ハローダイヤル)  
URL: <http://www.nact.jp/>

## アクセス:

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)

東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a出口から徒歩5分

都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7出口から徒歩4分

## 独立行政法人国立美術館とは

国立の美術館の運営・管理を行うために2001年4月に発足した独立行政法人です。東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の5館を運営しています。

## 東京国立近代美術館

1952年に日本で最初の国立美術館として開館。本館、工芸館、フィルムセンターを有する。本館では、20世紀初頭から現代までの約100年間の国内外の美術を収集。工芸館では、明治以降今日までの国内外の工芸およびデザイン作品を収集。フィルムセンターでは、芸術性に優れた作品、映画史上で重要な作品、その他貴重な文化・歴史資料としての作品等を中心に、国内外の映画フィルムを収集。

## 京都国立近代美術館

1963年に国立近代美術館京都分館として開館、1967年に京都国立近代美術館として独立。国内外の近現代美術を収集。とくに関西を中心とした西日本の美術に比重をおき、京都の近代日本画や工芸作品を有する。現代の陶芸、染色、ガラス作品や、写真コレクションも充実。

## 国立西洋美術館

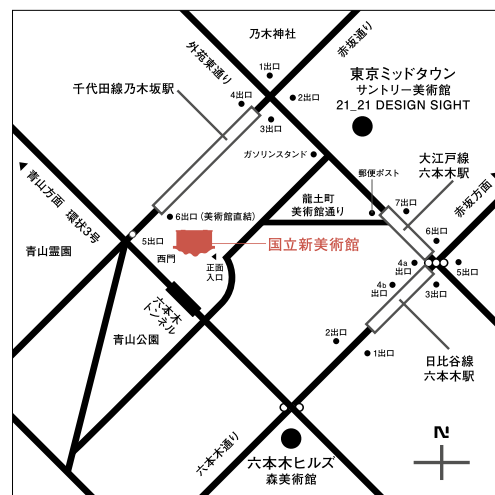
1959年、フランス政府から寄贈返還された松方コレクション(印象派の絵画、およびロダンの彫刻を中心とするフランス美術)を基礎に、広く西洋美術全般を対象とする唯一の国立美術館として開館。中世末期から20世紀初頭までの西洋美術を収集。また、ヨーロッパ版画も系統的に集めている。

## 国立国際美術館

1977年、大阪万博(1970年)の万国博美術館を活用し、国内外の現代美術を対象とする美術館として開館。2004年11月に大阪・中之島に新築移転。日本美術の発展と世界の美術との関連を系統的に明らかにすることを目的に、主に1945年以降の現代美術の作品を重点的に収集。

## 国立新美術館

2007年、5番目の国立美術館として開館。コレクションは持たず、国内最大級の展示スペース(14,000m<sup>2</sup>)を活かして多彩な展覧会を開催。あわせて、美術に関する情報や資料の収集・公開、および教育普及活動を行い、アートセンターとしての役割を果たす。





「陰影礼讃—国立美術館コレクションによる」展 広報用画像一覧 ①

展覧会広報用として12点の作品画像をご用意しております。ご希望の場合は別紙の申込書に必要事項をご記入の上、ファックスにてお申し込みください(メールで直接お申し込みいただくことも可能です)。どうぞよろしくお願いいたします。

申込番号	写真	和文 キャプション・クレジット	英文 キャプション・クレジット
01		岸田劉生 《古屋君の肖像(草持てる男の肖像)》 1916年 油彩/カンヴァス 東京国立近代美術館	KISHIDA Ryusei <i>Portrait of Koya Yoshio (Portrait of a Man Holding a Plant)</i> 1916 oil on canvas The National Museum of Modern Art, Tokyo
02		北脇昇 《独活》 1937年 油彩/カンヴァス 東京国立近代美術館	KITAWAKI Noboru <i>Spikenards</i> 1937 oil on canvas The National Museum of Modern Art, Tokyo
03		東山魁夷 《映象》 1962年 紙本彩色、額 東京国立近代美術館	HIGASHIYAMA Kaii <i>Reflected Images</i> 1962 color on paper, framed The National Museum of Modern Art, Tokyo
04		アレクサンドル・ロトチェンコ 《階段》 1929年/プリント1994年 ゼラチン・シルバー・プリント 東京国立近代美術館	Alexander RODOCHENKO <i>Stairs</i> 1929/1994 print gelatin silver print The National Museum of Modern Art, Tokyo
05		アンセル・アダムス 《自画像、モニュメント・ヴァレイ、ユタ》 1958年 ゼラチン・シルバー・プリント 京都国立近代美術館 ©2010 The Ansel Adams Publishing Rights Trust	Ansel ADAMS <i>Self Portrait, Monument Valley, Utah</i> 1958 gelatin silver print The National Museum of Modern Art, Kyoto ©2010 The Ansel Adams Publishing Rights Trust
06 ※		マルセル・デュシャン 《自転車の車輪》 1913年/シュヴァルツ版1964年 木製椅子、自転車の車輪 京都国立近代美術館 ©Succession Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2010	Marcel DUCHAMP <i>Bicycle Wheel</i> 1913/1964 Schwarz Edition wooden stool, bicycle wheel The National Museum of Modern Art, Kyoto ©Succession Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2010

「陰影礼讃—国立美術館コレクションによる」展 広報用画像一覧 ②

申込番号	写真	和文 キャプション・クレジット	英文 キャプション・クレジット
07		フセーベ・デ・リベーラ 《哲学者クラテース》 1636年 油彩/カンヴァス 国立西洋美術館	Jusepe de RIBERA <i>Philosopher Crates</i> 1636 oil on canvas The National Museum of Western Art, Tokyo
08		ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ 《牢獄》(第2版)より、第3葉《円形の塔》 1760年代半ばから1770年代初頭 エッチング、エングレーヴィングほか 国立西洋美術館	Giovanni Battista PIRANESI <i>III. Round Tower</i> , from "The Prisons ( <i>Le Carceri</i> )" (2nd edition) mid-1760s – early 1770s etching and engraving, etc. The National Museum of Western Art, Tokyo
09		クロード・モネ 《チャーリング・クロス橋、ロンドン》 1902年頃 油彩/カンヴァス 国立西洋美術館 (松方コレクション)	Claude MONET <i>Charing-Cross Bridge in London</i> ca.1902 oil on canvas The National Museum of Western Art, Tokyo (Matsukata Collection)
10 ※		ジョルジョ・モランディ 《静物》 1952年 油彩/カンヴァス 国立国際美術館 ©STAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2010	Giorgio MORANDI <i>Natura Morta (Still Life)</i> 1952 oil on canvas The National Museum of Art, Osaka ©STAE, Roma & SPDA, Tokyo, 2010
11		高松次郎 《影》 1977年 アクリリック/カンヴァス 国立国際美術館 ©Yasuko Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates	TAKAMATSU Jiro <i>Shadow</i> 1977 acrylic on canvas The National Museum of Art, Osaka ©Yasuko Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
12 ※		トーマス・デマンド 《木漏れ日》 2002年 Cプリント(28点組) 国立国際美術館 ©BILD-KUNST, Bonn & APG-Japan/JAA, Tokyo, 2010	Thomas DEMAND <i>Flare</i> 2002 C-print(28 pieces) The National Museum of Art, Osaka ©BILD-KUNST, Bonn & APG-Japan/JAA, Tokyo, 2010

※マークの付いた画像につきましては、別途使用条件がございます。詳しくは、[写真ご使用に際してのお願い]内の[\*著作権使用料について]をご確認ください

- \* 作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。  
なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。
- \* 写真掲載にあたっては、[広報用画像一覧]内のキャプション・クレジット全文(日英どちらか一方)を必ず表記してください。
- \* トリミングおよび文字のせはできませんので、ご了承ください。
- \* 基本情報確認のためゲラ刷り・原稿の段階で下記の広報担当までファックスまたはE-Mailにてお送りください。
- \* 掲載紙・誌等を必ず広報担当までご送付いただきますようお願いいたします。  
またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。

国立新美術館 広報担当 滝沢・野々下・李  
Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532  
E-mail: pr@nact.jp

#### \* 著作権使用料について

No. 6, 10, 12の画像使用につきましては、別途、著作権使用許諾の申請・著作権使用料が必要となりますが、以下の条件にてご使用いただく場合に限り、著作権使用料が免除となります。

#### ■ No. 6, 10

著作権使用料免除のための条件(文字のせ・画像の加工・改変無し、全図使用を前提といたします)

1. 掲載媒体は、新聞・雑誌に限ります。ウェブ媒体への掲載はできません。
2. 作品の複製寸法は、最大**9×5.5cm**(名刺大)、もしくは面積が**49.5cm<sup>2</sup>**以下である場合に限りします。
3. 展覧会情報(会場、会期等)の部分を除き、解説文が**400字以内**である場合に限りします。
4. <雑誌に関して>表紙・裏表紙ではなく、**本文中**への複製使用に限ります。
5. 写真掲載にあたっては、[広報用画像一覧]内のキャプション・クレジット全文(和英どちらか一方)を必ず表記してください。
6. 使用に際しては、下記の**一般社団法人 美術著作権協会(SPDA)**に対し、必ず使用許可の申請を行ってください。

一般社団法人 美術著作権協会(SPDA)  
〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-4 アジリア銀座J's 301号  
Tel: 03-5148-5551 Fax: 03-5148-5552  
E-mail: spda@wb3.so-net.ne.jp

#### ■ No. 12

著作権使用料免除のための条件(文字のせ・画像の加工・改変無し、全図使用を前提といたします)

1. 掲載媒体は、新聞・雑誌に限ります。ウェブ媒体への掲載はできません。
2. 作品の複製寸法は、面積が**50.0cm<sup>2</sup>**以下である場合に限りします。
3. 展覧会の告知記事、あるいは展覧会会期内に刊行される関連記事に限ります。
4. <雑誌に関して>表紙・裏表紙ではなく、**本文中**への複製使用に限ります。
5. 写真掲載にあたっては、[広報用画像一覧]内のキャプション・クレジット全文(和英どちらか一方)を必ず表記してください。
6. 使用に際しては、下記の**社団法人 日本美術家連盟(JAA)**に対し、必ず使用許可の申請を行ってください。

社団法人 日本美術家連盟(JAA)  
Tel: 03-3542-2686 Fax: 03-3542-2726



国立新美術館 広報担当 行

Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp

---

■画像データ申込み(ご希望のデータの番号にチェックをつけてください)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

■プレゼント用招待券申込み(ご希望の場合はチェックをつけてください)

10組20枚を希望します

\*発送は8月初旬を予定しております。チケット発送先となるご住所をご記入ください。

チケット発送先 ご住所:

---

貴社名:

---

媒体名:

---

ご担当者名:

---

TEL:

FAX:

---

E-mail:

---

画像到着希望日:

月

日

時ごろまでに送付

掲載予定日(コーナー名):

---

報道関係のお問い合わせ:

国立新美術館 広報担当 滝沢・野々下・李

Tel: 03-6812-9925 Fax: 03-3405-2532 E-mail: pr@nact.jp